

先日のNHK『すくすく子育て』で、「就学前に身につけたい力とは」というテーマの回がありました。保育園、幼稚園、幼保連携型認定こども園は、すでに2018年から、新しい指導指針、（指導要領）が施行されていますが、2020年から、小学校の「学習指導要領」も変わります。今、日本の教育が変わろうとしているのです。

就学前から「一定時間椅子に座って先生の話がきけるか？」「自分ひとりで身の回りのことがテキパキとできるか？」「文字の読み書きがある程度できるようになっていないとだじょうぶか？」などなど、番組の中でも就学前のお子さんを持つ親御さんの心配について、汐見先生（東大名誉教授）や大豆生田先生（玉川大学教授）など幼児教育の専門家の先生方がお答えになっておりましたが、「そういったことはあんまり心配しなくていい」という回答でした。

これまでもたびたびお伝えしてきましたように、これからの教育は「知識偏重型の詰め込み型の教育」「先生からの一方的な指導型の教育」から、「自分が学びたいことを意欲的に、他の人と対話しながら、より深く学んでいく」「豊かな発想が重視される教育」へと変わっていきます。

ですから、これまでの学校では一般的だった、先生が黒板の前に立って、大事なことを板書して、生徒はそれをひたすらノートに書き写すといった「トーク&チョーク方式」ばかりでなく、子どもたちが自分で調べたり、わいわい議論したり、発表したりする「ワークショップ方式」がどんどん増えていくはずですよ。

また「幼児期から小学校への接続」も大きく変わると言われています。幼児期は「遊び」を中心に主体性や意欲などを育てていて、それらがもとになって、小学校での学習が始まります。これまで多くの親御さんが「小学校に入る前に、あれもこれもできるようにしておかなければ・・・」と心配されていたと思いますが、そんなことよりも、もっと「その子らしさ」や「意欲」が大事にされるようになってくると思われそうです。

これまでもワークショップ方式の授業スタイルは行なわれており、「アクティブラーニング」という言い方をされてきましたが、「アクティブ」という言葉を誤解して受け取ってしまう人も多いようなので、最近では、「主体的・対話的で深い学び」という言い方をされるようになってきました。

「主体的」というのは、子どもが自分でやりたいことをやっていくことです。「対話的」というのは、何かをする時に自分1人だけでやるのではなく、意見を交換したりしながらやっていこうということです。先生の指導のしかたにもよりますが、よくしゃべる子どもが目立つような授業というのは、本来あるべき授業ではありません。先生はじーっと待っていて、「お、そういう意見持ってるんだね。なるほどね」というようにひとりひとりの考えを引き出してくれたり、何か意見を言ったらちゃんと評価してくれたりして、「意見を言うことがうれしい、たのしい」ということが積み重なっていくと、いろんなことが話せるようになっていきます。

これまでの日本の教育は、「先生の言うことをしっかり聞いているか」が評価の基準になってきました。しかし、これからは、ひとりひとりが「自分の意見をちゃんと言うことができるか」が評価の基準になっていくと思われそうです。ですから、ご家庭においても、「お父さん、お母さんの言うことを聞きなさい」ではなく、子どもに「どうしてそう思うの？」と聞いて、子どもが何かを言ったら、「なるほどね」と共感しながら、「でもこういう時はどうするの？」などと、お子さんと丁寧に対話していくことを大切にしてほしいのです。そうやって子どもが「話すことはおもしろい」と感じる体験を重ねていけるようにしてあげてください。なにより、子どもが夢中になれるもの、意欲的に取り組んでいる遊びを大切にしてください。遊びを通して子どもたちは、様々なことを学び、身に付けているのですから。

※ 2019年11月30日（土）放送のNHK『すくすく子育て』「就学前に身につけたい力とは？」を参考にしています。